

今日の説教のポイント<創世記 17 章 15~18 章 15 節>

①私達も「イシュマエルがいます」と答える信仰になっていないか？

高齢者であったアブラハムとサラは、「子を与える」という神様の約束を「ひそかに笑い」ました(17:17, 18:12)。さらにアブラハムは、「女奴隷によって与えられた子イシュマエルを感謝しています」と答えました(17:18)。すでに与えられているもので満足しようとする信仰深い謙虚な姿のようです。しかし、そうではないのです。神様がこれを聞かれてイシュマエルの繁栄に触れつつ言われた「しかし」(21)が大事です。彼によって得られるものとは質の全く違う恵みを、神様はアブラハムに約束されているのですから！

②神様が与えて下さる恵みは尋常のものではない！

聖書の神様を信じていると言っても、自分で小さな神様、小さな恵みにして、それを信じる信仰になっている場合もあります。主はアブラハムに言われました、「主に不可能なことがあろうか」(18:14)。同じことをイエス様も言われました、「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ」(マルコ 10:27)。この主の言葉を本当に信じて生き出すとき、世界が変わります。閉塞、諦め、惰性ではなく「神様の可能性」、自分の思いを超えた大きな神様、大きな恵みをいつも覚えながら生きられる世界に変わるのです！

③ゲッセマネでのイエス様の祈りに学ぶ。最後には主にお委ねする！

アブラハムが待たされたことにも注目です。神様に従った 12 章の旅の初めから子孫の繁栄を告げられながら、待望の子イサク（笑う）が与えられたのは 21 章です。しかし、子無きが故の苦悩の期間が長かったからこそその喜びも大きいし、神様への感謝の思いも特別なものとなったのではないのでしょうか。ただ、「自分の願いを願い続ければ必ずかなう」が今日のまとめでもありません。主はゲッセマネで、「しかし、私が願うことではなく、御心に適うことが行われますように」と祈られたのです（マルコ 14:36）。「主に委ねる」が目指すゴールです！